

県立大・連続セミナー

6

Webセキュリティ

インターネットを閲覧する際に、われわれは日常的にWebページを利用しています。利用の仕方は多様で、ニュース記事を読んだり、SNSに文章や画像を投稿したり、動画を閲覧したり、買い物をしたりと、人によっては1日のうちかなり長い時間、Webページを利用するというものもあるのではないのでしょうか。現代人にとって欠かせないとも言える存在になったWebページですが、さまざまな脅威にさら

情報システム学部
情報セキュリティ学科准教授

松田 健



脆弱性突く攻撃に備えて

らされているのが実情です。Webページを利用したサービスでは、閲覧するためのソフトウェアであるWebブラウザと、サービスを展開するためのWebサ

ーバーとの間でさまざまな情報のやりとりがされています。このようなWebに関する技術を用いて作られたアプリケーションのことをWebアプリケーションと言います。WebブラウザとWebアプリケーションとの情報のやりとりには、Webページの利用者の個人情報を含むさまざまな情報が含まれており、攻撃者はいろいろな手段を駆使することで有益な情報を盗んだり、We

bページやデータの改ざんをしたりします。

このような攻撃は、Webアプリケーションの欠陥である脆弱性を悪用することで実現されます。従って、欠陥を作らないような開発が重要になりますが、想定外の攻撃が起こり得ることも考え、万が一の時に攻撃をブロックできる可能性があるWebアプリケーションファイアウォールを導入することも重要な対策と言えます。攻撃を完全にブロックすることは至難の業ですが、今後の研究の進展が期待されています。

(おわり)